

平成 23 年度 卒業生答辞

ひと雨ごと、寒さの中に暖かさが入り混じり、日増しに春らしくなって参りました。

本日このような盛大な式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、お忙しい中御臨席賜りました皆様、卒業生一同心より御礼申し上げます。ここに卒業の日を迎えることができ、大変嬉しく思っております。

振り返れば4年前、我々は日本また世界各地からここ横浜にキャンパスを構える、横浜国立大学に集まって参りました。誰もが期待と不安両方を胸に抱き、この地での学生生活を始めました。それぞれが学生として過ごした時間はこれからの、我々の人生における糧となることと思えます。

私は、教育人間科学部マルチメディア文化課程に所属してきました。運命に引き寄せられるままにこの課程を選択し、マルチ激動の4年間を過ごして参りました。4年間に渡り、確かなアイデンティティを築くことのないまま、マルチメディア文化課程を見届け、時間を費やしました。しかし、私を含めマルチ一同、この課程を卒業できることを誇りに思っていることでしょうか。我々の関係する皆様から、「マルチメディア文化課程とは、何をしているところですか。」と質問される日々に終わりを迎えることを残念に思うのではないのでしょうか。この4年間で幾度と質問される度に、マルチで何を成すべきか考えることになり、その説明が格段に上達したことと思えます。

マルチメディア文化課程で扱われた領域は非常に多岐にわたり、個性豊かな先生の御指導の元、我々マルチ一同それぞれが珍獣として育て上げられました。我々にとってその自由な学習領域は、とても居心地の良いものであり、卒業することが大変惜しまれることと思えます。それゆえに少しの長居を企てる者がいることも、周知の事実であります。しかし、私を含めマルチメディア文化課程を卒業する者は皆、魅力あふれるこの課程に所属していたことは、素晴らしことであったと確信しております。これからの未来、珍獣として世に解き放たれた我々が、どの世界でマルチの創造力を活かした発展を遂げていくのか、自分自身を含め注目される所でありたい。

今日、我々は卒業します。4月から始まるそれぞれの違う道が、もう目の前に迫ってきてしまいました。我々は学生生活で得た自らの答えを胸に、その道を歩み始める時です。私は、我々の抱いたその答えが社会の答えとなることを願い、世界に貢献していけたらと思っております。

最後になりましたが、これまでの我々の学生生活を御支援くださいました皆様、誠にありがとうございました。横浜国立大学皆様の、今後より一層の御活躍と発展を祈り、答辞とさせていただきます。

平成 24 年 3 月 23 日
卒業生代表（教育人間科学部）